

あのお



平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

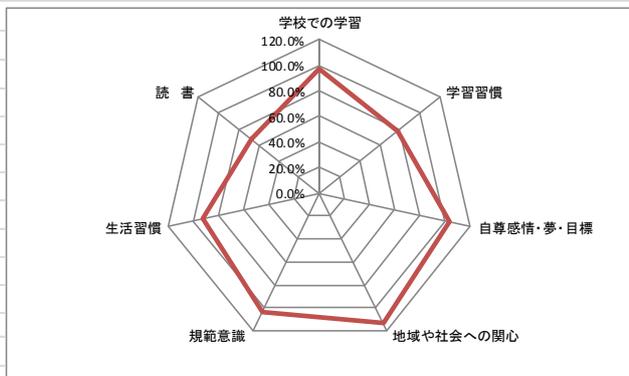
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に平均正答率をやや上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の問題の正答率が上がった。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の同音異義語の漢字を書く問題の正答率が上がった。 ○全国結果でも「書くこと」に関する問題の正答率は低いが、本校でも目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、限られた字数内に書く問題に課題が見られた。 	上回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」の正答率は、全国平均とほぼ同程度の問題もあった。 ○全体的に平均正答率を下回っている。特に、「数量関係」「量と測定」に関する問題に課題が見られた。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 自尊感情・夢・目標が全国を上回っている。しかし、困難なことに立ち向かったり新しいことに挑戦しているかの項目が全国を下回っている。自尊感情が高いので、成功経験で自信を付け、学力・体力向上に結び付けていく必要がある。
- 家庭学習(宿題以外の自主学習)を1時間以上行っている児童の割合が全国平均より上回っている。「家庭学習週間」の成果と思われる。
- 地域の行事に参加する児童が増えた。
- 読書量が全体的に低いので、朝の読書の時間の充実などを図り、読書への関心を高める取組が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 家庭学習で、漢字のプリントや漢字ドリルを活用し定着を図る。
- 授業開始5分を利用して、フラッシュカード等を用いて反復練習を行い、新出漢字や既習の漢字の定着を図る。
- 学力アップタイムを活用し、「数量関係」や「量と測定」に関する知識・技能の定着を図る。
- 毎時間、各教科で思考力・判断力・表現力を育成する授業を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 毎月実施している「家庭学習がんばり週間」を継続して行い、自主学習の習慣を定着させる。
- 携帯・スマホの使用時間やフィルターの取付など各家庭でルールをきちんと確認し、管理を徹底する。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に、基本的な生活習慣の見直しを図る。